

- ◆日時：平成26年8月11日（月）15:00～17:00
- ◆場所：商工会館3階萌え木ホールA会議室
- ◆出席者：委員 内田雄二、木下美智子、益田智史、林大樹（委員長）、斉藤浩、清水勉（副委員長）、高橋金一、長島剛、森田眞希、藤本裕（市・市民部長）、今井啓一郎、（欠席 大森委員）
- ◆事務局：市民部経済課 當麻光弘（経済課長）、田嶋隆行（経済課産業振興係長）  
小金井市商工会産業振興プラン推進室 黄金井の里（立川室長・千葉）  
：運営事務受託 特定非営利活動法人カッセ KOGANEI（黒崎・木藤、他5名）
- ◆傍聴者：2名

◇ 議事要旨 ◇

1. 委員長挨拶等  
略

（資料確認及び報告）

事務局より本日の配布資料である資料22「提言書の構成（案）〈前回配布の資料21の修正版〉」について以下の事項を説明した。

I. 設立検討の背景

- ・内容は概ね資料21と変わらないが、書きぶりを大幅に平易なものにした。

II. 中間支援組織に求められる事項

- ・新しく設立を検討する中間支援組織では、例えば「黄金井の里」で求められていたような市の「産業振興プラン」の推進機関、実施主体という位置づけではなく、各種事業者から求められる相談やマッチング事業、情報の受発信機能に重きを置いた組織づくりを目指し、必ずしも「産業振興プラン」のみに縛られる組織ではないことを明確にした。
- ・新しいニーズ、新しい連携先を想定した新しいサービスを提供できる組織とする。
- ・地域の幅広い人材により支えられ、かつその人材の能力を十分に発揮できるような組織を目指す。
- ・組織設立当初の財政基盤が脆弱な期間については市からの支援を受けるものの、最終的には地域の幅広い層により支援を受ける組織を目指す。

III. 実施にあたっての展開

- ・平成27年度に策定作業開始予定の次期「産業振興プラン」に新しい中間支援組織を位置づける。

なお、資料は全体的に検討委員会が主体であると読める書きぶりに変更したことを報告し、本資料で示した「産業振興プラン」の推進機関でなく、本来、中間支援組織として行うべきような事業を中心とすることにつき、最終的かつ十分な議論を頂きたい旨、発言した。

2. 議事

（1）提言書の内容について

委員長：資料22「提言書の構成（案）」については、3ページ以降を主な論点として議論を頂きたいと考えている。「I. 設立検討の背景」部分は背景説明であるから、事務局から出

された案で概ね良いのかなと思われる。次に資料22「提言書の構成(案)」の「Ⅱ.(2) 目的・役割について」は事務局から提案があり、「産業振興プラン推進事業」を本来の機能を中心としながら中間支援組織が担う形に変更されているがどうか。「Ⅱ.(3) 基本的な取り組み」については相談やマッチングに重点を置いていくということには異議は無いと思われるがどうか。

事務局：本来の中間支援組織としての各種の支援をすることをもって、結果として「産業振興プラン」の事業が推進されるという認識である。既存の団体を新たにつなぐことで結果として支援する。その結果入ってきた情報、調査した内容を個別の事業運営組織に提供し、ひいてはそれぞれをつなぎ、支援するというイメージである。これは各個別組織の事業遂行のための側面支援というイメージではないかと考えている。

内田委員：各種の事業の主体となるかどうかは大きな論点であると思われる。2つある考え方のうち、推進事業の主体となるのではなく、支援に徹する組織としての位置づけと理解した。但し、その肝心の「支援」のイメージが固まらない。どこまで覚悟をもって取り組んでいくのか、といった想いを文章化することが必要ではないか。3ページ中下部にある例示的項目の一つ一つは成し遂げるにはかなり難しいものがある。

事務局：「支援」一つとっても考えられる事業の全てをやるのが難しいのは承知している。その優先順位づけ等を委員会の中で議論頂けないかと考えている。

清水委員：既存団体がかみ切れていないニーズをつかみ、既存団体、特に行政にあげ、つなげることと理解した。あくまで既存の団体を生かした仕組みをつくり、既存団体と連携していくことが重要と考える。

委員長：人材、組織構成により、実施可能な範囲は限られてくる。確かに優先順位付けは大事と思われる。

内田委員：実際のニーズは始めてみないと分からないのではないかと。よって順位付けは事前に議論できるものではないと思われる。今必要なことは本委員会が終了し、準備会が立ち上がるとして、それ以降の中間支援組織にかかる熱意が文面に込められているようなことが重要である。

森田委員：内田委員の言うことは理解できる。言葉で言う「連携と支援」程難しいものはない。よって優先順位はつけられない。いろいろな事業はそれぞれどこかで重なっており、一つ一つを独立して考えることはできない。自分のやっていることについて考えてみても、本業以外の事項が本業にも良い影響を与えることを期待して、覚悟をもってやっている。中間支援組織自体がお金を生み出す仕組み、例えば3ページ下の例を中間支援組織の事業として入れるようなことも大事である。

黄金井の里：ここで言う「支援」とは、「産業振興プラン」の推進主体でなく、各事業の運営組織を側面から支援するという点から、その位置づけを明確する意味で記載している。

委員長：では委員の中で大きな意見の相違はないと理解してよいか。

委員一同：異議なし

清水委員：(3)のタイトルと下部に「基本的な取り組み」が重複して出てきているが。

事務局：上は考え方、下は業務内容イメージの意味であったが、適切なものに直したい。またその内容に応じて並べ方については今一度整理が必要である。また下の「基本的な取り組み」についても修正したい。

藤本委員：基本的取り組みについて、「助成事業の支援」という文言は「あっせん」、「情報提

供」の方がふさわしいのではないか。

益田委員：ノウハウ支援のうち、人材育成、人材派遣の意味するところは何であるか？

事務局：人材育成のやり方、専門家派遣のつなぎ役、セミナー開催など、活動団体の運営支援等を指している。

長島委員：「事業」と「支援」という文言は非常に扱いにくい微妙な意味を持っている。中間支援組織として行う自主事業の扱いが漏れてしまうように思う。実施主体の自主性が損なわれてしまうのではないか。支援に徹することばかりが強調されているイメージである。もっと膨らませていくイメージにした方が良いのではないか。しかも事業内容も満載であり、もう少し身の丈にあったイメージである必要がある。

委員長：委員各位の意見を踏まえ、適宜加筆修正を事務局にお願いしたい。

内田委員：事業の記載にあたっては、あくまで利用者たる市民ニーズに沿った形のものを望みたい。現状において産業振興に関し、他に代わり得る組織がないことも強調すべきである。

斉藤委員：今回の構成案は前回と比べ分かりやすくなっていると思われる。淡々と書かれている印象がある。望むべくは、提言書の冒頭に前文的に小金井における商業の危機的な状況を強調して記載すべきである。商業活動はレベルダウンが始まっている。商店街自体の問題をオール小金井で支えて、工業も含め中間支援組織を利用することで、振興し、立ち直させるというようなことを「つかみ」の意味も含めて記載すべきではないか。

委員長：確かに根本的な問題意識が抜けている印象がある。

事務局：是非盛り込みたいと考える。用意し、熱い思いを込めさせて頂きたい。

委員長：次に「Ⅱ．（４）人材」について議論頂きたい。

今井委員：本提言書は市長を始め、市民に納得してもらいものを作るべきであって、どうも理屈先行のイメージがある。人材等については必ずしも必要な項目ではないのではないか。

委員長：確かにそういう印象はあり、仰りたい気持ちはよくわかる。

清水委員：今後市からの補助を受けるとすれば、その筋道をつける意味では必要ではないか。

事務局：あくまで組織の機能的なものを記した結果である。もう少しハートの記載も盛り込んでいきたい。

斉藤委員：全ての業務を特定の人に求めることはできない。チームでやるべきことをリーダーとして取りまとめられることが重要であるし、無料サポーター的な周辺の人々の位置づけ、巻き込み方も重要で考えておく必要がある。そうでないと輪が広がらないのではないか。そうやって考えていくと、組織構成や財源の問題は自動的に常識の範囲に収まると思われる。

委員長：中間支援組織は特定の人材の活動だけを指しているのではない。広がりのあるものを目指すことが重要である。その場合組織構成や財源案等を一つに絞るべきかどうか。

清水委員：「Ⅱ．（５）組織の構成」の資料１９を基にした各表については、必ずしも絞り込む必要はないと思われる。

長島委員：そもそも本委員会として市長に了解を得るべきことは何になるのか。それにより考慮すべき事項、記載すべき事項が定まってくるのではないか。

事務局：新しい組織の規模感、現在の「黄金井の里」について、漠然ながらもその将来

像、予算規模の大まかなところは恐らく求められるであろう。

今井委員：事業の手を広げるとなると、規模感は大きくなるのではないか。なら当初案ということで大きく書いた方が良くはないか。

内田委員：以前より「黄金井の里」の総括をすべきと言い続けていたが、行政としては「黄金井の里」の扱いについてどうあることが望ましいのか聞きたい。

事務局：「黄金井の里」では十分に果たせなかった機能も踏まえて、新しい中間支援組織を考えているつもりである。組織の具体的な部分は、「黄金井の里」が属する商工会等とも相談してからになるであろう。また次期「産業振興プラン」に左右される性質のものだと思われる。

長島委員：本委員会ではあくまで理想像だけを示し、組織構成等、詳細部分は委員会での議論になじまないような感がある。

事務局：「Ⅱ．（４）人材と（５）組織」について、それぞれの項目はある個人を念頭にしたものではなく、チームとしてあるべき像を示し、その各モデルの比較方式はとらない。こういうものがありますといった程度に留めたいと考えている。「Ⅱ．（６）財源」については、これまで市が示した考え方が基本になる。

委員長：今日の議論をまとめたいが、本来の中間支援組織像を果たすことを主目的とし、その財源としては補助金、受託事業を目指すこと、将来的な可能性においては「ソーシャルインパクト」のような仕組みを取り入れるということも考慮したい。いかにお金を市内でお金を回す仕組みを作れるかということだと考える。

内田委員：中間支援組織の認知度を高めるためには、その営業力を高めるだけでなく、また当事者の気持ちだけでなく、個人や法人会費などにより支える仕組みをつくることで、行政もお金を出しやすくなる。ということを力説したい。

委員長：組織像については、比較と取られやすい表形式をやめて、文章化するというところで提言書案をつくれないうか。

斉藤委員：提言書は、商工会の意向を事前に確認した上で出すべきだと思うがどうか。また「黄金井の里」の運営委員会についてはどうか。

事務局：次回委員会までに「黄金井の里」の運営委員会を開催し、本委員会における方向性についてご理解を求める。また、提言書中の表現について表形式でなく、文章化することについても了承した。

### 3 その他

次回委員会は8月26日（火）の14:00から16:00まで商工会館2階会議室で開催することとし、各委員の了承を得た。